

平成 22 年度畜産経営指導実施結果

平成 23 年 6 月

公益社団法人 新潟県畜産協会

目 次

1	実施状況の概要	1
2	指導対象経営の概要	2
3	指導区分別の実施結果の概要	3
4	継続指導事例の指導結果	4
5	緊急課題対応型指導経営体の生産性向上に向けた取り組み内容	7
	(1) 酪農経営	7
	(2) 肉用牛経営	10
	(3) 養豚経営	11
6	参考資料	15

1 実施状況の概要

平成 22 年度の畜産経営指導は、配合飼料価格の高止まりや畜産物消費量減退による生産物価格の低迷により、収益性が低下している畜産経営体に対して、表-1 に示した 4 種類の指導区分で指導を実施した。

指導に当たっては、別掲の「平成 22 年度畜産コンサルタント名簿」に記載したとおり当協会職員 5 名と新潟県及び畜産関係団体職員 30 名で構成した畜産コンサルタントが緊急課題対応型指導で明らかになった先進事例の取り組み内容や、平成 19 年度に改訂した新潟県畜産経営指導指標を活用して、指導区分ごとの指導内容での指導を実施した。

指導戸数は、表-2 のとおり合計 44 戸で、特に、緊急課題対応型指導では、先進事例の経営改善手法を 1 事例当たり年間 3 回程度、調査して経営成果の取りまとめを行った。

本指導実施結果は、現状の畜産経営の収益性と技術上の課題をより明確なものとするとともに、特に、普及に活用できる成果を上げている事例の取り組み内容について畜種別に整理した。

表-1 指導区分と指導内容

指導区分	指導内容
緊急課題対応型	配合飼料価格高騰の影響により畜産経営の所得が大幅に低下していることから、飼養管理技術等の向上を課題とした改善指導を通年・継続的に行い、改善効果・経営実績を把握して、他の経営への普及を図るための指導
総合	経営診断分析により問題点を把握し、それを改善するための指導
ワンポイント	経営体が抱えている特定課題（生産技術の改善、新技術の導入方策、損益計算書、貸借対照表等の財務諸表の作成・分析手法の習得等）を解決するための指導
フォローアップ	総合診断受診後の経営体への助言・指導内容の定着を図るための指導

表-2 指導実施戸数

区分	緊急課題 対応型指導	総合指導	ワンポイント 指導	フォローアップ 指導	合計
酪農経営	3 戸	3 戸	4 戸	2 戸	12 戸
肉用牛経営	3	6	8	3	20
養豚経営	3	3	3	3	12
合計	9	12	15	8	44

2 指導対象経営の概要

(1) 経営形態

平成 22 年度に指導を実施した 44 戸の中から、技術水準、所得、財務内容など経営全体の状況を把握できた酪農経営 6 戸、肉用牛経営 17 戸、養豚経営 6 戸の合計 29 戸の診断実績数値を新潟県畜産経営指導指標値と対比して「6 参考資料」として掲載した。

これらの 29 戸について、畜産専業、後継者就農、自給粗飼料生産の状況を取りまとめると表-3 のとおりであった。畜産専業戸数割合は酪農、肉用牛繁殖経営では 60%以上と高かったが、肉用牛肥育経営は全て稲作との複合経営であった。

また、後継者就農戸数を見ると 29 戸のうち約 4 割の 11 戸で後継者が就農しているが、肉用牛肥育経営では 14.3%と他の畜種に比べて非常に低かった。

酪農経営、肉用牛経営における自給粗飼料生産戸数を見ると、肉用牛繁殖経営では全ての事例が自給粗飼料生産に取り組み、酪農経営でも 2/3 に当たる 4 戸で取り組みが見られたが、肉用牛肥育経営では 6 戸 (42.9%) と少なく、購入飼料に依存した経営が多かった。

表-3 指導対象経営の経営形態

(戸 (%))

区 分	酪農経営	肉用牛経営		養豚経営	合 計
		繁殖経営	肥育経営		
診 断 実 績 掲 載 戸 数	6	3	14	6	29
畜 産 専 業 戸 数	5 (83.3)	2 (66.7)	0 (0)	2 (33.3)	9 (31.0)
後 継 者 就 農 戸 数	3 (50.0)	3 (100)	2 (14.3)	3 (50.0)	11 (37.9)
自 給 粗 飼 料 生 産 戸 数	4 (66.7)	3 (100)	6 (42.9)		13 (56.5)

(注) 自給粗飼料生産戸数の合計は酪農経営、肉用牛経営戸数に対する比率で示した。

(2) 飼養規模

指導対象経営の飼養規模を新潟県が取りまとめた家畜頭羽数調査結果 (平成 22 年 2 月 1 日現在) と比較すると、次のとおり比較的規模の大きな経営であった。

- ・ 酪農経営は経産牛規模が 23.0~54.6 頭の範囲にあり、県平均の 26 頭以上の経営が 6 戸中 5 戸 (83.3%) と多かった。
- ・ 肉用牛繁殖経営は繁殖牛規模が 23.0~34.0 頭の範囲にあり、県平均の 5 頭を大きく上回り、和牛肥育経営でも肥育牛規模が 28.4~128.6 頭と県平均の 24 頭を全て上回った。一方、交雑種肥育経営では肥育牛規模が 40.9~178.9 頭で県平均の 83 頭を上回ったのは 3 戸中 1 戸 (33.3%) のみであったが、肉用牛経営全体としては規模の大きな経営が多かった。
- ・ 養豚経営は全て、一貫経営であり、種雌豚の飼養規模は 43.9~256.1 頭の範囲にあり、県平均の 102 頭以上の経営が 4 戸 (66.7%) と多かった。

3 指導区分別の実施結果の概要

(1) 緊急課題対応型指導

緊急課題対応型指導においては、配合飼料価格の高止まりに対応して多様な工夫や対策を行い、生産性の向上に努めている 9 戸（酪農経営 3 戸、和牛繁殖経営 1 戸、和牛肥育経営 2 戸、養豚経営 3 戸）について、取り組み内容を調査した。

後掲した表-10～16 に、緊急課題対応型指導を実施した 9 戸の生産性向上を図るための取り組み内容を整理した。

(2) 総合指導

総合指導では、技術・財務面を含めた経営全般の分析を行い、対象経営が抱える問題点を把握して改善指導を実施した。合計指導戸数は 9 戸であるが、緊急課題対応型指導、ワンポイント指導を含めて、経営全般の分析を行うために必要な一連のデータを 2 年間継続して把握できたのが 25 戸あった。

表-4 に示した、これらの継続指導事例 25 戸の飼養畜 1 頭当たり年間所得額の推移を畜種別に見ると、酪農経営では 2 戸で大幅に経営改善が図られ、生産性向上により販売乳量が増加したことから平均では 45 千円の所得増加が見られた。

一方、肉畜経営では、和牛繁殖経営で雄子牛販売単価が前年比 42 千円増となり、所得額が増加した。和牛肥育経営及び交雑種肥育経営では素牛費の低減や枝肉価格の上昇により所得額が増加し、同じく枝肉価格が向上した養豚経営でも大幅な所得の増加が見られた。

この結果、継続指導事例 25 戸のうち、前年より所得額の増加した経営は酪農経営 4 戸中 2 戸、肉用牛経営 16 戸中 13 戸、養豚経営 5 戸中 5 戸で、合計 20 戸（全体の 80%）と多かった。

表-4 飼養畜 1 頭当たり年間所得額 (戸、円)

区分	集計戸数	平成 21 年	平成 22 年	増 減
酪 農 経 営	4	186,994	232,412	45,418
和 牛 繁 殖 経 営	3	75,809	91,608	15,799
和 牛 肥 育 経 営	10	11,362	61,974	50,612
交 雑 種 肥 育 経 営	3	9,980	46,403	36,423
養 豚 経 営	5	476	39,210	38,734

(3) ワンポイント指導

ワンポイント指導では、特定の課題を解決するための生産技術指導を 15 戸の経営を対象として実施した。畜種別に改善が必要な特定課題と指導内容は次のとおりである。

- 酪農経営の課題は、対象の 4 戸中 3 戸で分娩間隔が 15 か月以上、体細胞数が 30 万個以上と多いことであり、繁殖成績の改善、乳房炎の防除対策について重点的に指導した。

- ・ 肉用牛経営の課題は、対象の7戸のうち、繁殖経営1戸では子牛の事故率が18.8%と高いこと、日齢体重が雌・雄子牛とも指標値に比べて0.1kg程度小さく販売価格も安かったことであり、子牛の衛生管理の徹底や低能力繁殖雌牛の更新について指導した。和牛肥育経営4戸では枝肉格付4等級以上率が平均で54%と低いこと、生産コストが高いこと(4戸)、疾病が多発していること(1戸)であり、肥育ステージに応じた飼料給与体系への変更や自給粗飼料生産によるコスト低減対策、衛生管理の徹底について指導した。一方、交雑種経営の2戸では、疾病による事故率が14.3%、8.1%と高いこと、出荷体重・枝肉重量が小さいこと(1戸)、また和牛肥育も行っている1戸では枝肉格付4等級以上率が36%と低いことであり、衛生管理の徹底や飼料給与体系の見直し、和牛肥育技術の向上対策について指導した。
- ・ 養豚経営の課題は、3戸中2戸で離乳から受胎までの日数が20日以上と長いことと、3戸中1戸で密飼いによる肉豚事故率が10.9%と高いことであったため、繁殖豚の淘汰基準の明確化による繁殖技術の向上及び適正な飼養面積の確保対策等について指導した。

(4) フォローアップ指導

フォローアップ指導では、総合診断受診後の助言・指導内容の定着を図るための指導を8戸の経営を対象に実施した。

- ・ 酪農経営は対象が2戸で、うち1戸は課題であった体細胞数が63万個から37万個に減少し、1戸は分娩間隔が16.6か月から15.9か月に短縮した。しかし、体細胞数、分娩間隔はさらに改善が必要なレベルであり、さらに経産牛1頭当たり乳量が7,118kg、5,890kgと低いことが今後の課題であった。
- ・ 肉用牛経営は、対象の3戸のうち、繁殖経営が1戸、肥育経営が2戸であり、繁殖経営では課題であった分娩間隔が12.4か月から12.1か月に改善したが、指標値の12.0か月以内を達成することが今後の課題であった。肥育経営では課題であった枝肉格付4等級以上率が2戸平均で55.7%から78.8%に改善し、枝肉単価も1,989円から2,140円と151円上昇した。
- ・ 養豚経営は対象が3戸で、上物率の向上が課題であった2戸では、それぞれ1.9%、7.5%の改善が見られ、離乳時育成率が低かった1戸では87.2%から90.6%に向上したが、より一層の事故率の低減、受胎日数の短縮、枝肉重量のバラツキの改善等が各経営の今後の課題であった。

4 継続指導事例の指導結果

平成21年度、22年度に継続して総合的な指導を実施した事例における主な経営分析数値の推移は次のとおりであった。

(1) 酪農経営

酪農経営では、前掲の表-4のとおり、経産牛1頭当たり所得が前年に比べて45千円増加した。その要因は、表-5に示したように、経産牛1頭当たり乳量が270kg向上したことや、新たに1戸で自給粗飼料栽培に取り組んだことで乳飼比が3.5%下がり、生乳1kg当たり総原価が2.6円低減したことによる。さらに、収入

面でも生乳1kg当たり販売乳価が1.7円上昇したことも所得向上につながった要因となった。

今後改善すべき課題は、夏季の暑熱の影響により受胎率が低下し、分娩間隔が15.9か月と長くなっているため、13.5か月を目標に短縮を図ることである。そのためには、暑熱対策の徹底とともに繁殖障害牛の早期治療の実施、必要養分量に見合った飼料の適正給与等が必要である。

表-5 酪農経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：4戸)

区 分	単位	平成 21 年	平成 22 年	増 減
生乳 1kg 当たり販売乳価	円	114.01	115.71	1.70
生乳 1kg 当たり総原価 (自家労働費控除)	円	92.50	89.90	▲2.60
乳 飼 比 (全 体)	%	57.8	54.3	▲3.5
平 均 分 娩 間 隔	月	15.3	15.9	0.6
経産牛 1 頭当たり乳量	kg	8,897	9,167	270
経 産 牛 処 分 率	%	24.0	23.5	▲0.5
平 均 体 細 胞 数	万个	20.3	22.0	1.7

(2) 和牛繁殖経営

和牛繁殖経営では、前掲の表-4 のとおり、繁殖牛 1 頭当たり所得が前年より16千円増加した。その要因は、表-6 に示したように、子牛販売価格が雌子牛、雄子牛全体で17千円上昇したことによる。

今後改善すべき課題は、分娩間隔を12か月以内に短縮するとともに、子牛の日齢体重を向上するために適切な飼養管理を行うこと、また生産した子牛をさらに高値で販売するために、高能力繁殖牛への更新を進めることである。

表-6 和牛繁殖経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：3戸)

区 分	単位	平成 21 年	平成 22 年	増減
雌 子 牛 販 売 価 格	円	356,257	330,330	▲25,927
雄 子 牛 販 売 価 格	円	406,483	448,970	42,487
子牛 1 頭当たり総原価 (自家労賃控除)	円	306,405	331,192	24,787
繁殖牛 1 日 1 頭当たり飼料費	円	251	226	▲25
平 均 分 娩 間 隔	月	12.6	12.5	▲0.1
雌 子 牛 日 齢 体 重	kg	0.91	0.96	0.05
雄 子 牛 日 齢 体 重	kg	1.06	1.01	▲0.05

(3) 和牛肥育経営

和牛肥育経営では、前掲の表-4のとおり、肥育牛1頭当たり所得が前年に比べ51千円増加した。その要因は、表-7に示したように、販売肥育牛素牛費が111千円低下し、また増体が良好であったことから、枝肉重量が去勢牛平均で486kgと大きかったことによる。

今後改善すべき課題は、去勢牛1日当たり増体重と枝肉格付4等級以上率が指標値以下となっている経営が5戸(50%)見られるので、全体を底上げするために、肥育ステージに合わせた適切な飼料給与を実践することである。

表-7 和牛肥育経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：10戸)

区分	単位	平成21年	平成22年	増減
枝肉1kg当たり販売価格	kg	2,136	2,141	5
販売肥育牛素牛費	円	528,155	417,246	▲110,909
枝肉1kg当たり総原価 (自家労賃控除)	円	2,108	1,904	▲204
肥育牛1日1頭当たり飼料費	円	542	521	▲21
去勢牛平均枝肉重量	kg	479	486	7
去勢牛1日当たり増体重	kg	0.78	0.79	0.01
枝肉格付4等級以上率	%	71.0	74.4	3.4

(4) 交雑種肥育経営

交雑種肥育経営では、前掲の表-4のとおり、肥育牛1頭当たり所得が前年に比べ36千円増加した。その要因は、表-8に示したように、販売肥育牛素牛費が29千円低下し、さらに肥育牛1日1頭当たり飼料費が28円低下したことに加え、去勢牛平均枝肉重量が10kg増加したことによる。

今後改善すべき課題は、枝肉格付3等級以上率を指標値の50%以上とするため、飼料給与体系を見直すことである。

表-8 交雑種肥育経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：3戸)

区分	単位	平成21年	平成22年	増減
枝肉1kg当たり販売価格	kg	1,141	1,179	38
販売肥育牛素牛費	円	146,058	117,099	▲28,959
枝肉1kg当たり総原価 (自家労賃控除)	円	969	979	10
肥育牛1日1頭当たり飼料費	円	468	440	▲28
去勢牛平均枝肉重量	kg	459	469	10
去勢牛1日当たり増体重	kg	0.97	1.01	0.04
枝肉格付3等級以上率	%	43.6	40.4	▲3.2

(5) 養豚経営

養豚経営では、前掲の表-4 のとおり、種豚 1 頭当たり所得が前年に比べ約 39 千円増加した。その要因は、表-9 に示したように年間換算離乳子豚頭数が 0.1 頭減少したものの、肉豚事故率が 0.6%低減したこと等により枝肉 1kg 当り総原価が 7 円下がったことに加え、枝肉 1kg 当り販売単価が 11 円上昇したことによる。

今後改善すべき課題は、肉豚事故率を指標値の 3%以下、1 日当り増体量を 670g 以上、枝肉上物率を 60%以上にするため、畜舎内換気の改善等衛生対策の徹底や厚脂を防止するための飼料給与内容の改善及び種雄豚の更新を行うことである。

表-9 養豚経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：5 戸)

区 分	単位	平成 21 年	平成 22 年	増 減
枝肉 1kg 当り販売価格	円	430	441	11
枝肉 1kg 当り総原価 (自家労働費控除)	円	429	422	▲7
年間換算離乳子豚頭数	頭	23.3	23.2	▲0.1
肉 豚 事 故 率	%	5.0	4.4	▲0.6
1 日 当 り 増 体 量	g	668	650	▲18
枝 肉 上 物 率	%	50.4	44.7	▲5.7

5 緊急課題対応型指導経営体の生産性向上に向けた取り組み内容

緊急課題対応型指導を実施した 9 戸の畜産経営体が実践している生産性向上を図るための取り組み内容を調査し、次のとおり畜種別に整理した。

(1) 酪農経営

表-10 生産性向上を図るために実践している取り組み内容 (その 1)

目 的	取り組み内容	効 果
快適な飼養環境の整備	飼槽は表面の滑らかな石製のものを設置	飼槽が平らであり、楽に掃除ができることから、給与飼料の腐敗を防止でき、さらに飼槽が冷たいことから特に、夏季の採食量が増加した。
	古くなった牛床マットを再利用して、牛舎の通路に設置	牛の繋ぎ替え、導入・出荷時に受胎確認牛・乾乳牛等を移動する際に、牛が足を滑らせる危険性が減り事故がなくなった。
	成牛舎に隣接した屋外にパドックを設置して長期未受胎牛、体調不良牛、疾病牛を別管理	長期未受胎牛の運動により発情が再帰し発情発見も容易となった。また、体調不良牛、疾病牛の体調回復が図られ、病傷による治療は経産牛 50 頭規模で年間 15 件と少なくなった。

表-11 生産性向上を図るために実践している取り組み内容（その2）

目 的	取り組み内容	効 果
高能力牛の 選抜	牛群検定を長期間、継続実施し、検定データを活用して低能力牛を更新	牛群の産乳能力が斉一化したことから飼養管理が容易となり、経産牛1頭当たり乳量が10,187kgに向上した。
	毎年、日本ホルスタイン登録協会の体型審査を受検し、母牛の能力・体型を補完できる種雄牛の精液を授精	後継牛の能力・体型(特に乳房の付着)が向上するとともに、経産牛32頭中31頭が自家産牛となった。
	毎月の個体別乳量、乳成分を測定し、飼養管理に活用	牛ごとの乳量、乳成分を把握することにより、高能力牛に必要な飼料を適切に給与でき、産乳能力を発揮させることができた。
分娩間隔の 短縮	朝、昼、晩の牛舎内作業前に、牛が横臥している状態で、体調や発情を観察	牛の疾病・事故の発生や発情の見逃しを防止でき、分娩後の平均初回授精日数を85日に短縮できた。
	分娩後30日前後で初回発情を確認後、全ての牛の発情情報を牛舎に掲示した繁殖カレンダーに記録し管理	2回目の発情日を予測して、授精適期に人工授精を確実に実施でき、分娩間隔が13.6か月に短縮された。
	分娩後60日を経過しても発情が明瞭でない牛は直ちに獣医師の診療を受け、人工授精した牛は40日で獣医師に受胎確認を依頼	生殖器疾患牛を早期治療でき、長期空胎を防止することにより、繁殖管理の効率化が図られ、分娩間隔の短縮(13.6か月)につながった。
夏季の暑熱 による被害 の防止	換気扇14台(インバーター付)を設置し、夏季は24時間送風を実施(経産牛50頭規模)	6~10月の搾乳牛1日1頭当たり乳量がそれぞれ26.5kg、29.2kg、28.9kg、28.4kg、31.5kgで、夏季の大幅な乳量低下を防止できた。
	牛舎構造は天井を高く設計し、断熱材としてガルバニウム鋼板を使用	牛舎内の熱の滞留を防止でき、断熱効果により日中の牛舎内の温度上昇がゆるやかとなった。
	牛舎壁面を金網、巻き上げカーテン方式とし、寒冷紗を設置	巻き上げカーテンのこまめな開閉により、朝日、夕日の牛舎内への侵入を防止でき、併せてカラス、ハトの侵入もなくなった。
	飲水に利用する給水管を太いものに交換し、貯水量を増加させると共に、配管をトーナメント方式に変更	夏季の飲水量が増加する時期に、牛が一斉に水を飲んでも、繋養場所による給水量の不足がなくなり、経産牛1頭当たり乳量が10,187kgに向上した。

表-12 生産性向上を図るために実践している取り組み内容（その3）

目 的	取り組み内容	効 果
労働生産性の向上	搾乳作業機としてミルカーを自動で運搬するキャリロボを導入し、搾乳労働の軽減と作業時間を短縮	ミルカー運搬労力が軽減されると共に、自動離脱装置の利用により搾乳時間が導入前の2人で3時間から1人で1.5時間に短縮された。
	飼料混合機を導入し、TMR飼料を調製して給与	飼料給与に要する時間が導入前の2人で40分から1人で40分に短縮され、さらに飼料の給与ロスがなくなり採食量が増加した。
飼料費の節減	牛ごとの泌乳量を毎月把握し、必要な養分量となるよう飼料を計量して給与	飼料の過不足や給与ロスが減り、乳飼比（経産牛当たり）を56.3%から50.4%に低減できた。
	とうふ粕、廃棄される果樹（リンゴ、ナシ等）を無償で収集し、TMR飼料に混合して給与	未利用資源をTMR飼料に混合して利用することにより、購入飼料費を節減できた。
乳房炎の防除	体細胞数の多い牛の乳汁は乾乳前に薬剤感受性検査を行い、乾乳期に入るとすぐに効果の見られた薬剤で治療	乾乳前に98万個（7頭平均）であった体細胞数が分娩後には9万個に低減できた。
	パイプラインミルカーのライナーを2か月に1回交換	年間平均体細胞数を27万個から20万個に低減できた。
	搾乳時の前搾りを徹底し、プレディッピング、ポストディッピングはノンリターン型のディッパーで確実に乳頭消毒を実施	乳房炎の新規感染が減少し、体細胞数を20万個台に低減できたことから、乳質格差金の年間支払額を85万円から18万円に減らすことができた。
生産子牛の発育向上	自家育成牛は全頭、公共育成牧場等に預託して飼育	放牧することにより、十分な粗飼料が給与され、初産分娩後の高乳量を維持できる体作りができた。
自給粗飼料の確保	飼料用トウモロコシを3ha栽培し、スチールサイロ、バンカーサイロ等で良質サイレージに調製	約7か月間、トウモロコシサイレージの給与が可能となり、乳飼比（経産牛当たり）を39.7%に低減することができた。
	4戸の酪農家で新たに草地生産組合を設立し、トラクター、ロールベラー等の一連の作業機を導入	4戸で構成する草地生産組合で作業機を導入することにより、補助事業を活用でき、機械導入に要する初期費用の負担が軽減できた。

(2) 肉用牛経営

表-13 生産性向上を図るために実践している取り組み内容(その1)

目 的	取り組み内容	効 果
分娩間隔の短縮	家畜人工授精師の資格を取得し、常時人工授精を実施できる体制を整備	適期に授精することで、平均分娩間隔が11.6か月となり、1年1産を達成した。
	繁殖牛の牛房の屋外にパドックを設置し、十分に歩き回れるスペースを確保	発情行動の観察が容易になったことで、適期に授精できるようになった。 併せて、体調把握と早期の疾病発見が可能となった。
	繁殖牛の観察回数・観察時間の増加	発情の見落としが少なくなり、適期に授精できるようになったことで、授精回数が1.7回から1.6回になり、分娩間隔が12.4か月から12.1か月に短縮した。
肢蹄の事故防止	削蹄師免許を取得し、繁殖牛は年1回程度、子牛は出荷前に削蹄を実施	自分で削蹄することにより、削蹄料を節減できるとともに、蹄病の予防及び牛の体型維持につながった。
肥育管理技術の向上	肥育牛の鼻輪を導入年ごとに色分けして管理	個体識別が楽になったことから、肥育ステージごとの給与体系の設定など飼養管理が容易となった。
	飼槽を牛房ごとに区切らず、ローダーで給餌作業を実施	給餌作業の効率化で労働時間が短縮された。
	素牛導入後3か月まで嗜好性の高いTMRを給与	肥育前期に粗飼料を確実に摂取させることで、以降の濃厚飼料多給期間に備えた腹づくりができた。
	月齢や体重を考慮した牛群構成	発育に応じた管理が可能となり、個体間のばらつきを防止できた。
粗飼料の確保	32.4haの草地を2戸共同で管理し、作業機を共同で使用し粗飼料を収集	作業機の維持コストを低減することにより、牧乾草を1kg当たり生産費で23.2円と購入乾草の半額程度で確保できた。 粗飼料自給率は約90%となっている。
	集落内や周辺地域の畜産農家や耕種農家と連携し、粗飼料を収集	集落内の農家で組織した有限会社が収集した稲わらを安価で購入し、また隣接する集落の転作集団が栽培したシロビエを無償で利用することにより、粗飼料全体の76.0%を12.3円という低コストで調達している。

表－14 生産性向上を図るために実践している取り組み内容（その2）

目 的	取り組み内容	効 果
暑熱対策	牛舎壁面に遮光ネットを設置し、牛舎内を換気扇と扇風機で強制通風	外気温より牛舎内の温度が 5℃ほど下がり、夏季の暑熱による事故を防止できた。
販売収入の増加対策	子牛市場では販売額が安価となる雌子牛を自家肥育して出荷	肥育牛として販売することにより、子牛で販売した場合に比べ、1頭当たり所得が 139 千円増加した。
衛生環境の向上	給餌後に飼槽を清掃することで、清潔な状態を維持	食べ残し飼料の変敗を防ぎ、疾病の発生を予防できた。
防疫の強化	外部導入牛を在房牛と別の牛舎で一定期間隔離して飼育	外部導入牛に対し検疫期間を設けることで、感染症の侵入を防止できた。

（3）養豚経営

表－15 生産性向上を図るために実践している取り組み内容（その1）

目 的	取り組み内容	効 果
快適な飼養環境の整備	ウインドウレス離乳舎の導入	全自動システムで理想的な舎内温度と湿度及び換気が可能となり、子豚事故率が 10%から 3.1%に低減した。
	簡易離乳子豚施設の導入＋子豚舎・肥育舎の増改築	衛生的な環境の施設で飼育することにより、疾病が減少し、肉豚事故率が 19.2%から 5.8%に低減した。
	オールアウト後の豚房は水洗、消毒、乾燥を確実に実施	衛生的な環境で、健康的に肥育豚を飼育することにより、肉豚事故率が 8.7%から 5.5%に低減した。

表－16 生産性向上を図るために実践している取り組み内容（その2）

目 的	取り組み内容	効 果
季節に応じた飼養管理技術の確立	夏季の種豚舎はドリップクーリングシステムにより暑熱対策を実施	繁殖豚の離乳から受胎までの日数が7.4日に短縮した。
	出荷用トラックの荷台天井に暑熱対策の散水システムを整備	豚の体温上昇を抑えることにより、出荷時の事故を防止できた。
	夏季は飼料タンクを遮光カバーで被覆	変敗による飼料の廃棄が無くなった。
	冬季は分娩柵にコルツヒーターと温水床暖房を設置	離乳時育成率が85.3%から91.6%に向上した。
	冬季の肥育豚舎の窓際に手作りの折りたたみ式簡易天井を設置	1日当たり増体量が636gから655gに増加した。
分娩間隔の短縮	雄豚の豚房に、種付に使用した日を確認できるカードを掲示	雄豚を計画的に使用することにより受胎率が向上し、分娩間隔を152.6日から149.1日に短縮できた。
	飼料添加剤の活用	種雄豚にニンニク粉末が入った添加剤を給与して精力減退を防止することで、受胎率が向上し、分娩間隔を155.4日から151.7日に短縮できた。
地域防疫体制の確立	地域の養豚農家全員が豚舎への入口に「無断立入禁止」看板を設置	地域全体の防疫体制が確保され、オーエスキー、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の豚舎への侵入を防止できた。
	定期的な勉強会の開催	防疫に対する意識を共有するとともに、後継者や若手従業員育成・スキルアップにつながった。
生産コストの低減	せんべいや餅の製造時に発生する食品残さを肉豚用飼料に混合して給与	配合飼料を食品残さで代替することにより、肉豚用飼料の1kg当り単価が前年より5.4円低減した。

平成22年度 畜産コンサルタント名簿

1 常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
総括	佐藤 栄治	公益社団法人新潟県畜産協会	総括畜産コンサルタント 畜産環境アドバイザー	事務局次長
	鍋谷 政広	公益社団法人新潟県畜産協会	獣医師	衛生指導課長
養豚	谷川 昌行	公益社団法人新潟県畜産協会	畜産環境アドバイザー	技師
肉用牛	小野 才吉	公益社団法人新潟県畜産協会	総括畜産コンサルタント	経営相談員
	荒井 紫織	公益社団法人新潟県畜産協会		技師

2 非常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
経営	高橋 一裕	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	阿部 浩一	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	牛腸奈緒子	新潟県農業総合研究所基盤研究部		専門研究員
飼養管理 (全般)	宮腰 雄一	新潟県農林水産部経営普及課	*	主査
飼養管理 (酪農・肉用牛)	中川 浩	新潟県農業総合研究所畜産研究センター繁殖工学科		主任研究員
	篠川 温	新潟県農業総合研究所畜産研究センター繁殖工学科		主任研究員

担当部門	氏名	所属	資格	職名
飼養管理 (酪農)	関 誠	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		専門研究員
	島津是之	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	専門研究員
	水落栄一	新潟県妙法育成牧場	*	場長代理
	新井田 治	新潟県農業共済組合連合会事業部家畜課		考 査 役
	川上政之	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		調 査 役
飼養管理 (肉用牛)	高橋英太	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	主任研究員
	佐藤昭仁	新潟県農業共済組合連合会事業部家畜課		副 考 査 役
	柳澤公二	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		主 査
飼養管理 (養豚)	大久保剛揮	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	主任研究員
	藤井 崇	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	研 究 員
	田中淳一	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		副 審 査 役
家畜衛生管理	仲山美樹子	新潟県中央家畜保健衛生所企画指導課		副 参 事
	福留信司	新潟県中央家畜保健衛生所佐渡支所		主 任
	後藤靖行	新潟県下越家畜保健衛生所企画指導課		主 査
	須貝寛子	新潟県中越家畜保健衛生所企画指導課		主 任
	雨宮章子	新潟県上越家畜保健衛生所企画指導課		主 任
飼料作物	岡島 毅	新潟大学農学部		准 教 授
	小橋有里	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科		主任研究員
会計・経理	豊田直彦	日本政策金融公庫新潟支店農林水産事業農業食品課		職 員
	若井謙治	新潟県農業協同組合中央会農業対策部	◎	職 員
	高橋直之	新潟県農業協同組合中央会農業対策部		職 員
	安藤 佑	新潟県信用農業協同組合連合会審査部		職 員
	朝妻公大	新潟県信用農業協同組合連合会融資部		職 員
	若月淳一	新潟県信用農業協同組合連合会農業部		職 員

(注) 非常勤の資格の*印は畜産環境アドバイザー、◎印はJA 全国専門畜産経営診断士を示す。

6 参考資料

平成22年度酪農経営の指導実績

1 生産技術数値

診	区	分	期	間	指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号							
								1	2	3	4	5	6		
規	飼	料	畑	a	/	560	0	21.11.1~	22.1.1~	22.1.1~	21.11.1~	22.1.1~	22.1.1~		
								22.10.31	22.12.31	22.12.31	22.10.31	22.12.31	22.12.31		
模	産	牛	頭			54.6	23.0	54.6	47.8	36.0	31.2	26.7	23.0		
技	術	乳	経産牛	平均産	歴産	3.0	2.2	2.8	2.5	2.2	2.9	3.0	2.6		
			経産牛	平均分	娩間	隔月	18.1	14.1	17.2	15.4	16.8	14.1	18.1	15.8	
			経産牛	平均種	付回	回数	4.9	1.7	1.7	2.3	2.9	2.3	4.9	2.5	
			経産牛	処	分	率	%	27.5	16.7	27.5	27.2	16.7	22.4	21.7	
管	理	生	搾乳牛	1頭当	り産	乳量	kg	8,653	10,238	9,737	11,451	9,849	8,653		
			経産牛	1頭当	り産	乳量	kg	7,739	9,452	8,430	10,187	8,350	7,739		
			濃厚飼	料1kg	当り産	乳量	kg	1.64	2.43	2.04	2.43	2.43	1.69	1.64	
			脂	肪	率	%	3.61	3.66	3.72	3.66	3.88	3.61	3.77	3.88	
成	績	乳	無	脂	固	形	分	率	%	8.45	8.76	8.65	8.75	8.76	
			体	細	胞	数	千	個	192	210	275	202	382	612	
			経産牛	1頭	当	り	給	与	量	kg	3,106	3,891	3,544	6,049	4,733
			経産牛	1頭	当	り	給	与	量	kg	3,282	6,011	5,214	4,317	4,317
与	給	給	与	養	分	率	C	P	%	113.2	137.1	118.4	128.4	144.4	
		給	与	充	足	率	T	D	N	%	99.6	121.3	112.5	121.9	122.9
与	給	全	給	与	粗	飼	料	%	3.4	4.3	3.9	4.6	3.4	4.0	
															体

2 経営数値

技術管理成績	区分	指標値	最大値	最小値	経営					
					1	2	3	4	5	6
飼料生産	経産牛1頭当り作付実面積a		23.5	0	0	11.7	11.1	0	11.2	23.5
	T D N 自給率%		10.7	0	0	4.5	5.7	0	9.9	10.7
労働成績	10 a 当り収量	kg	3,330	3,330	-	-	-	-	3,330	-
	青刈作物	kg	6,312	6,312	-	-	6,312	-	-	-
	生草	円	-	-	-	-	-	-	-	-
	1kg当り生産費埋草	円	17.05	11.65	-	-	11.65	-	17.05	-
出荷	乾草	円	-	-	-	-	-	-	-	-
	経産牛1頭当り飼養管理時間	時間	120.0	127.0	127.0	172.2	153.3	129.9	181.9	279.8
生産原価	10 a 当り飼料栽培時間	時間	8.0	6.8	-	-	6.8	-	9.6	-
	生乳1kg当り販売単価	円	116.45	115.56	115.67	115.84	115.56	115.78	115.78	116.45
	生産原価	円	131.53	95.50	111.28	107.83	95.50	99.87	103.97	131.53
	総原価	円	157.66	105.10	117.84	120.80	105.10	113.68	121.97	157.66
経営	生乳1kg当り生産原価	円	87.68	69.33	87.68	80.63	69.33	79.02	71.91	83.22
	自家労賃控除後総原価	円	109.36	78.93	94.24	93.60	78.93	92.84	89.91	109.36
管理	経産牛1頭当り所得	円	311,170	54,953	174,368	210,008	311,170	234,102	215,716	54,953
	1日当り所得	円	30,691	3,463	26,084	27,502	30,691	20,011	15,780	3,463
管理成績	所得率	%	30.5	5.6	17.4	18.3	30.5	18.4	21.1	5.6
	乳飼比率	%	58.2	40.9	58.2	56.6	49.4	52.8	40.9	51.2
安全	うち経産牛当りの乳飼比率	%	50.4	39.7	49.7	47.8	44.7	50.4	39.7	49.2
	支払利息対売上高比率	%	4.6	0.0	0.2	0.7	0.8	0.0	0.6	4.6
性能	減価償却費対売上高比率	%	18.2	8.2	18.2	8.2	8.5	10.9	16.0	10.5
	自己資本比率	%	87.9	▲ 185.3	45.5	▲ 12.8	7.5	87.9	11.7	▲ 185.3
	流動比率	%	456.1	23.4	456.1	90.0	174.5	291.2	59.2	23.4
	経産牛1頭当り固定資産額	千円	1,157	218	1,157	278	399	440	476	218
経産牛1頭当り負債額	千円	1,067	82	821	632	546	82	649	1,067	

(注)1 飼料生産における1kg当り生産費は自家労賃控除額で示した。
2 経産牛1頭当り負債額は流動+固定負債の期首・期末の平均で示した。

平成22年度和牛繁殖経営の指導実績

1 生産技術数値

区 分	指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号		
				1	2	3
診 断 期 間				22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.11.30
規 模	繁殖牛飼養規模 繁殖牛1頭当たり飼料畑面積 繁殖牛1頭当たり年間労働力	340 49.7 125.5	230 21.3 83.0	340 47.8 113.4	32.7 49.7 125.5	23.0 21.3 83.0
技 術	平均産次(供用産次)産 繁殖平均分娩間隔ヵ月 繁殖受胎に要する種付回数 ET含年間子牛生産頭数	7.0以上 12.0以内 1.5以下 34	4.5 11.6 1.6 19	4.5 11.6 1.6 34	5.4 12.1 1.6 31	5.2 13.9 3.0 19
管 理	ET含年間子牛販売頭数		17	19	18	17
成 績	雌子牛販売時日齢	270以上	255	307	290	255
	雌子牛販売時体重	260以上	260	291	264	260
	雌子牛販売時体重	0.96以上	0.91	1.02	0.91	1.02
	雄子牛販売時日齢	270以上	274	283	290	274
販 売	雄子牛販売時体重	290以上	264	288	307	264
	雄子牛販売時体重	1.07以上	0.96	1.02	1.06	0.96
	子牛事故率	3.0以下	0	5.0	0	5.9
販 売	雌子牛販売価格		306,989	370,950	313,050	306,989
	雄子牛販売価格		361,200	497,175	488,536	361,200
	平均		342,067	450,671	420,292	342,067

2 経営数値

技術管理成績	区分		指標値	最大値	最小値	経営体番号		
	繁殖牛1頭当たり	子牛1頭当たり				1	2	3
技術管理成績	繁殖牛1頭当たり	濃厚飼料	1.5	1.2	0.9	0.9	1.2	1.0
		粗飼料	7.7	7.9	7.1	7.1	7.4	7.9
		計	9.2	8.9	8.0	8.0	8.6	8.9
技術管理成績	繁殖牛1頭当たり	1日当たり飼料費		256	184	238	256	184
		年間		93,440	67,160	86,870	93,440	67,160
	子牛1頭当たり	濃厚飼料	2.0	3.2	2.9	3.2	2.9	3.1
技術管理成績	子牛1頭当たり	粗飼料	1.6	1.7	0.8	1.7	0.8	1.5
		計	3.6	4.9	3.7	4.9	3.7	4.6
	繁殖牛1頭当たり	1日当たり飼料費		300	219	300	237	219
技術管理成績	繁殖牛1頭当たり	年間		72,000	56,880	72,000	56,880	58,473
	粗飼料	自給率	88.0以上	97.6	87.4	87.4	89.7	97.6
	自家労賃控除後	生産原価		326,835	272,060	316,136	272,060	326,835
経営管理成績	繁殖牛1頭当たり	総原価		384,149	297,573	311,856	297,573	384,149
	所得	率		170,520	▲ 43,198	170,520	147,503	▲ 43,198
	所得	率	35.0以上	39.8	▲ 16.8	34.3	39.8	▲ 16.8
経営管理成績	支払利息対売上高比率	%	4.0以下	2.6	0	0.05	0	2.6
	減価償却費対売上高比率	%	15.0以下	19.4	14.3	17.6	19.4	14.3
	自己資本比率	%	50.0以上	83.2	58.7	83.2	76.7	58.7
経営管理成績	流動比率	%	100.0以上	1,639.7	217.1	1,639.7	1130.4	217.1
	繁殖牛1頭当たり資産額	千円		928	524	928	705	524
	繁殖牛1頭当たり負債額	千円		216	156	156	164	216

平成22年度和牛肥育経営の指導実績

1 生産技術数値

区 分	指 標 値	最 大 値	最 小 値	経 営 体 番 号											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
診 断 期 間				22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31
規 模	肥 育 牛 飼 養 規 模 頭	128.6	28.4	128.6	124.6	115.6	87.6	66.3	63.5	60.7	58.0	45.8	37.9	28.4	
模	肥 育 牛 1 頭 当 た り 勞 働 時 間 時 間	67	22.0	48.0	26.1	34.7	43.2	27	22	35.9	44.6	43.5	67	67	
肥 育	肥 育 牛 飼 養 規 模 頭	70	18	70	55	62	43	29	44	29	37	35	20	18	
技 術	出 荷 頭 数	(32) 56	(0) 12	(14) 56	55	(32) 30	(5) 38	29	44	(1) 28	37	(20) 15	(8) 12	18	
管 理	出 荷 月 齢 月	(32.6) 30.5	(25.2) 28.3	(29.4) 30	28.3	(30.5) 29.5	(29.3) 29.6	29.6	30.5	(32.6) 29.8	29.4	(29.2) 29.5	(29.3) 29.3	29.5	
成 績	肥 育 牛 (去 勢 牛) の 成 績	(70.4) 760	(49.1) 587	(639) 665	760	(677) 695	(609) 615	623	649	(659) 606	598	(585) 607	(70.4) 587	617	
	出 荷 日 数 日	(71.3) 825	(50.5) 748	(672) 754	760	(708) 781	(71.3) 803	764	767	(700) 748	782	(685) 825	(64.5) 758	808	
	出 荷 体 重 kg	(45.2) 512	(31.8) 467	(417) 467	479	(44.8) 494	(45.2) 509	474	476	(44.4) 472	495	(42.5) 512	(40.0) 470	501	
	1 日 当 た り 増 体 重 kg	(0.70) 0.88	(0.52) 0.73	(0.67) 0.73	0.83	(0.68) 0.76	(0.69) 0.83	0.76	0.73	(0.61) 0.73	0.80	(0.70) 0.88	(0.66) 0.82	0.82	
	枝 肉 格 付 4 等 級 以 上 率 %	(80.0) 94.7	(0) 38.0	(64.0) 86.0	38.0	(63.2) 63.0	(80.0) 94.7	65.5	90.9	(0) 67.9	81.1	(50.0) 66.7	(50.0) 50.0	77.8	
事 故	事 故 率 %	5.3	0	0	4.4	0	2.3	0	2.2	0	0	2.8	0	5.3	
販 売	販 売 牛 1 頭 当 た り 円	1,176,641	768,916	1,047,200	768,916	962,348	1,176,641	971,458	1,125,672	956,138	1,096,661	889,175	856,461	1,123,915	
枝 肉	枝 肉 1 kg 当 た り 円	2,355	1,606	2,290	1,606	2,019	2,342	2,050	2,355	2,027	2,217	1,925	1,939	2,244	
飼 料	濃 厚 飼 料 kg	8.1	7.1	7.3	7.8	7.1	7.8	7.2	7.6	7.8	8.2	7.8	7.5	8.1	
料 給	肥 育 牛 1 頭 1 日 粗 飼 料 kg	2.0	1.6	1.8	2.1	3.9	2.3	2.0	1.8	1.6	2.1	1.9	2.0	2.3	
	料 当 た り 給 与 量 kg	10.1	9.1	9.1	9.9	11.0	10.1	9.2	9.4	9.6	10.3	9.7	9.5	10.4	
	飼 料 要 求 量 kg	12.9	11.9	12.6	11.9	15.5	12.5	12.1	12.7	13.2	12.9	12.4	13.0	12.7	
与 飼	1 日 当 た り 円	598	389	389	523	426	576	491	508	526	598	580	529	587	
料 費	増 体 1kg 当 た り 円	748	540	540	630	600	711	646	696	720	748	744	725	705	

2 経営管理成績

区	分	指標値	最大値	最小値	経営体番号										
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
経営	販売牛1頭当たり	素牛費 円	495,833	316,578	398,220	316,578	357,188	423,732	410,514	437,397	432,262	457,025	385,230	375,054	495,833
	販売牛1頭当たり	生産原価 円	672,351	455,237	463,236	506,653	455,237	533,286	489,420	494,605	469,125	535,344	561,190	672,351	670,916
	販売牛1頭当たり	総原価 円	772,830	483,789	486,369	494,596	483,789	594,430	559,922	590,928	515,348	613,631	626,135	772,830	691,115
経営	販売牛1頭当たり	素牛費 円	990	662	871	662	773	844	866	919	918	924	834	848	990
	販売牛1頭当たり	生産原価 円	1,522	985	1,013	1,060	985	1,032	1,033	1,040	993	1,082	1,214	1,522	1,339
	販売牛1頭当たり	総原価 円	1,749	1,035	1,064	1,035	1,047	1,152	1,182	1,242	1,091	1,240	1,355	1,749	1,379
管理	出荷牛1頭当たり	所得 円	286,613	▲ 112,923	286,613	▲ 49,053	185,173	268,232	87,190	140,906	113,615	121,784	▲ 42,550	▲ 112,923	85,055
	肥育牛1頭当たり	所得 円	156,010	▲ 59,590	156,010	▲ 25,590	102,518	131,666	38,137	97,636	54,281	77,690	▲ 32,516	▲ 59,590	53,908
	肥育牛1頭当たり	受領額 円	49,502	25,045	38,228	25,045	30,262	32,037	33,978	31,812	49,502	34,129	40,084	42,461	37,287
成績	肥育牛1頭当たり	所得 円	117,782	▲ 102,051	117,782	▲ 50,635	72,256	99,629	4,159	65,824	4,779	43,561	▲ 72,600	▲ 102,051	16,621
	所得 率	%	27.4	▲ 13.2	27.4	▲ 6.6	19.7	22.6	9.0	12.5	11.8	11.0	▲ 4.8	▲ 13.2	7.6
	支払利息対売上高比率 %	%	6.1	0	1.2	0	3.3	0.1	5.2	3.8	2.0	2.2	3.9	6.1	0
全	安減償却費対売上高比率 %	%	11.1	1.3	4.3	5.1	3.5	2.0	3.1	2.1	3.0	3.6	1.3	11.1	3.2
	自己資本比率 %	%	98.3	▲ 19.4	54.5	95.2	15.6	69.6	▲ 13.6	▲ 19.4	42.7	36.4	4.8	24.0	98.3
	流動比率 %	%	6,344.5	101.8	785.3	2,354.6	130.6	6,344.5	188.9	131.9	312.4	144.8	101.8	121.4	5,422.8
性	肥育牛1頭当たり	資産額 千円	1,129	659	663	839	659	1,129	675	791	791	813	707	951	998
	肥育牛1頭当たり	負債額 千円	946	17	302	40	556	343	760	946	454	517	670	723	17

平成22年度交雑種肥育経営の指導実績

1 生産技術数値

区	分	指標値	最大値	最小値	経営体番号			
					1	2	3	
技術管理成績	診断期間				22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	22.1.1~ 22.12.31	
	規模	肥育牛飼養規模 肥育牛1頭当たり労働時間	178.9 58.7	40.9 16.1	178.9 16.1	45.5 56	40.9 58.7	
	肥育技術成績	出荷頭数	頭	78	15	78	17	15
		出荷月齢	月	24.0以内	24.0	24.8	25.3	24.0
		肥育日数	日	710日以内	740	697	740	697
		種出体重	kg	770以上	784	777	784	783
	育成成績	肥育肉重量	kg	460以上	471	466	471	470
		1日当たり増体重	kg	1.00以上	1.02	1.02	0.99	1.02
	事故率	枝肉格付3等級以上率	%	50.0以上	47.1	34.0	47.1	40.0
		事故率	%	3.0以下	8.1	4.0	5.6	4.0
販売成績	販売牛1頭当たり価格	円	575,615	534,508	548,776	575,615	534,508	
	枝肉1kg当たり価格	円	1,223	1,137	1,177	1,223	1,137	
飼料給与	肥育牛1頭1日 当たり給与量	濃厚飼料	7.7	7.1	7.5	7.1	9.0	
		粗飼料	1.6	1.0	1.7	1.7	1.0	
	計	9.3	8.8	9.2	8.8	10.0		
与飼料	飼料要求量	kg	9.8	8.9	9.0	8.9	9.8	
	1頭1日当たり 増体1kg当たり	円	520	360	360	441	520	
	飼料費	円	510	353	353	441	510	

2 経営数値

区 分	指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号		
				1	2	3
原 価	販売牛1頭当たり	152,483	95,629	103,184	95,629	152,483
	素牛費					
原 価	生産原価	610,439	379,108	379,108	610,439	412,600
	総原価	578,084	362,522	362,522	578,084	437,109
原 価	販売牛枝肉1kg当たり	324	203	221	203	324
	素牛費					
原 価	生産原価	1,297	814	814	1,297	878
	総原価	1,229	778	778	1,229	931
所得	出荷牛1頭当たり	119,957	▲ 38,517	119,957	64,828	▲ 38,517
	所得					
所得	肥育牛1頭当たり	62,131	23,054	62,131	23,054	54,024
	肥育牛1頭当たり	46,573	29,436	29,436	46,573	37,663
所得	肥育牛1頭当たり	32,695	▲ 23,519	32,695	▲ 23,519	16,361
	所得					
所得	率	21.2	8.6	21.2	8.6	13.3
安 全 性	支払利息対売上高比率	1.9	1.3	1.3	1.7	1.9
	減価償却費対売上高比率	5.1	4.9	5.1	5.1	4.9
安 全 性	自己資本比率	67.1	35.9	52.0	67.1	35.9
	流動比率	781.7	201.5	201.5	752.6	781.7
安 全 性	肥育牛1頭当たり資産額	794	391	391	421	794
	肥育牛1頭当たり負債額	456	154	187	154	456

平成22年度 養豚経営の指導実績

1 繁殖部門

規 模	規 模	区 分	指標値	最大値	最小値	1	2	3	4	5	6
						21.6.1～ 22.5.31	22.1.1～12.31	22.1.1～12.31	22.1.1～12.31	22.1.1～12.31	22.1.1～12.31
		診 断 期 間									
	種 豚 頭	種 豚 頭		256.1	43.9	256.1	195.7	143.3	104.6	48.0	43.9
	種 豚 頭	種 豚 頭		19.8	2.4	19.8	9.4	5.2	9.5	2.9	2.4
	種 豚 頭	種 豚 頭		27.6	11.0	12.9	20.8	27.6	11	16.6	18.3
	種 豚 頭	種 豚 頭		60.5	34.4	38.7	38.8	49.5	34.4	60.5	43.3
	種 豚 頭	種 豚 頭		4.9	3.0	4.2	4.3	3.0	4.8	4.9	4.4
	種 豚 頭	種 豚 頭		13.0	10.8	10.8	13.0	11.0	12.1	10.8	11.9
	種 豚 頭	種 豚 頭		1.7	0.3	1.2	1.7	0.3	0.8	0.7	1.0
	種 豚 頭	種 豚 頭		11.3	9.6	9.6	11.3	10.7	11.3	10.1	10.9
	種 豚 頭	種 豚 頭		3.60	0.00	1.75	0.43	0.88	0.38	3.60	0.00
	種 豚 頭	種 豚 頭		10.2	8.8	8.8	10.1	9.8	10.2	9.1	9.8
	種 豚 頭	種 豚 頭		27.7	21.9	22.7	27.7	21.9	24.0	25.0	27.2
	種 豚 頭	種 豚 頭		6.0	5.0	6.0	6.0	5.0	6.0	6.0	6.0
	種 豚 頭	種 豚 頭		91.7	89.4	91.7	89.4	91.6	90.3	90.1	89.9
	種 豚 頭	種 豚 頭		27.7	6.8	6.8	7.4	15.8	10.0	27.7	12.6
	種 豚 頭	種 豚 頭		166.7	143.5	143.5	149.1	151.7	148.0	166.7	153.8
	種 豚 頭	種 豚 頭		2.54	2.19	2.54	2.45	2.41	2.47	2.19	2.37
	種 豚 頭	種 豚 頭		25.2	19.9	22.4	24.7	23.6	25.2	19.9	23.2
	種 豚 頭	種 豚 頭		1,272	913	913	1,252	1,272	1,211	1,142	1,073
	種 豚 頭	種 豚 頭		5.6	2.3	-	-	2.3	4.0	4.3	5.6
	種 豚 頭	種 豚 頭		0.5	0.3	-	-	0.3	0.3	0.4	0.5
	種 豚 頭	種 豚 頭		2.7	1.4	-	-	1.4	1.9	2.5	2.7

2 肥育部門並びに経営管理部門

技術管理成績	区		分		単位	指標値	最大値	最小値	1	2	3	4	5	6
	肉種	豚	飼	養										
肥育部門	種豚(♀)	1頭当り	肉豚	出荷時	頭数	23.0	2,464.4	419.9	2,464.4	2,068.8	1,211.7	1099.2	472.2	419.9
	増肥	育	開始	体	kg	6以上	6.0	5.0	6.0	6.0	5.0	6.0	6.0	6.0
	増肥	育	体	重量	kg	115	118.3	107.6	118.3	115.7	110.8	115.7	107.6	110.7
	増肥	育	期	間	kg	109	112.3	101.6	112.3	109.3	105.8	109.7	101.6	104.7
	増肥	育	増	量	日	161	172.0	149.5	167.8	166.9	169.9	153.8	172	149.5
	増肥	育	増	量	g	670以上	713	591	670	655	623	713	591	700
	増肥	育	増	率	%	3以下	6.2	1.8	6.2	5.8	5.5	2.7	4.1	1.8
	増肥	育	増	積	m ²		0.758	0.538	0.745	0.538	0.735	0.629	0.686	0.758
	増肥	育	増	量	kg	75	76.3	71.5	76.3	75.2	72.3	75.5	71.5	72.3
	増肥	育	増	価	円	14以下	457	412	412	457	439	455	444	453
経営管理成績	増肥	育	増	額	円	60以上	25.65	8.40	21.73	12.27	25.65	8.40	17.36	15.18
	増肥	育	増	率	%		62.8	26.1	42.7	38.3	26.1	62.8	53.7	56.0
	増肥	育	増	率	-	2.78	3.00	2.72	2.72	2.81	3.00	2.90	2.96	2.90
	増肥	育	増	原価	円		7,292	5,461	5,714	6,501	5,577	5,461	7,292	6,304
	増肥	育	増	原価	円		7,857	5,499	6,041	7,139	5,499	5,941	7,857	5,849
	増肥	育	増	当り	円		31,997	24,573	27,947	27,103	24,573	25,334	31,997	29,869
	増肥	育	増	当り	円		457	336	366	360	457	336	448	413
	増肥	育	増	当り	円		36,761	27,286	30,763	32,472	27,286	31,537	36,761	31,921
	増肥	育	増	当り	円		514	403	403	432	507	418	514	442
	増肥	育	増	当り	円		33,361	25,358	28,001	30,846	25,358	29,720	33,361	28,082
管理成績	増肥	育	増	当り	円		471	367	367	410	471	394	467	388
	増肥	育	増	当り	円		116,683	▲ 33,124	53,207	40,421	18,864	116,683	▲ 33,124	107,211
	増肥	育	増	当り	円		4,658	▲ 1,609	2,650	1,871	887	4,658	▲ 1,609	4,610
	増肥	育	増	当り	円		64	▲ 22	35	25	16	62	▲ 22	64
	増肥	育	増	当り	円		37,332	▲ 4,356	37,332	21,672	7,411	33,438	▲ 4,356	12,895
	増肥	育	増	当り	%	15以上	14.1	▲ 5.1	8.6	5.3	3.4	13.6	▲ 5.1	14.1
	増肥	育	増	当り	%	2以下	1.1	0.0	0.5	1.1	0.5	0.0	0.5	0.5
	増肥	育	増	当り	%	10以下	10.5	3.8	5.4	7.2	10.5	6.8	7.5	3.8
	増肥	育	増	当り	円		400	0	147	400	144	0	143	156
	増肥	育	増	当り	円		2,844	1,236	1,663	2,529	2,844	2,343	2,394	1,236
安全性	増肥	育	増	当り	%	50以上	95.1	3.9	45.7	30.2	3.9	95.1	68.4	68.4
	増肥	育	増	当り	%	200以上	1,155	285	560	344	466	1,155	285	325
	増肥	育	増	当り	千円		800	43	196	429	800	-	91	43
	増肥	育	増	当り	千円		835	51	233	479	835	51	202	102

新潟県畜産経営技術高度化推進事業

事業主体

新潟県農林水産部畜産課

TEL 025-285-5511（内線 2966） FAX 025-280-5010

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/chikusan/1196698566592.html>

事業受託者

公益社団法人新潟県畜産協会

TEL 025-234-6781 FAX 025-234-7045

URL <http://niigata.lin.gr.jp>